

令和7年10月1日

保護者様

京都市立岩倉北小学校

校長 五反辰彦

令和7年度 第1回学校評価について

本校教育活動にご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。令和7年度第1回学校評価に関するアンケートの結果をご報告いたします。いただいたご意見をもとに、よりよい学校づくりに向けて、取り組みを進めて参ります。ご高覧いただけますと幸いです。

1 学校教育目標について



保護者の方からのご意見

1. 教育理念「自走自在」への賛同

- 「自走自在」は素晴らしい、前向きで共感できる理念だと思います。
- 子どもにこのように育ってほしいという親の思いと一致しており、支持しています。
- 自立心や考える力を育む理念として、時代に合った良い指針だと感じます。
- 覚えやすく、印象に残る言葉で、子どもも理解している様子が見られます。

2. 実践を通じた成長の実感

- 学校行事や活動を通じて「自走自在」が実践されていると感じます。
- 子どもたちが協力し合い、目標に向かって努力する姿に成長を感じます。
- 好きなことや得意なことで人の役に立つ姿に、理念の浸透を実感しています。

3. 支援の必要性と家庭との連携

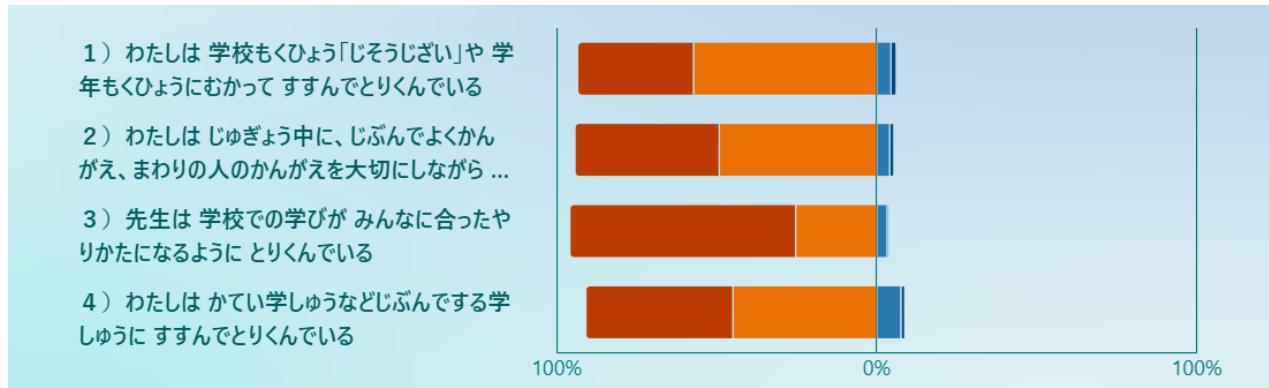
- 年齢や個性によっては自立が難しいため、学校や家庭での適切な支援が必要だと感じます。
- 理念の具体的な取り組みを知り、家庭でも同じ方向性で関わりたいという声があります。
- 子どもが理念を誤解しないよう、見守りながら育てていきたいです。

4. 教育活動への改善要望

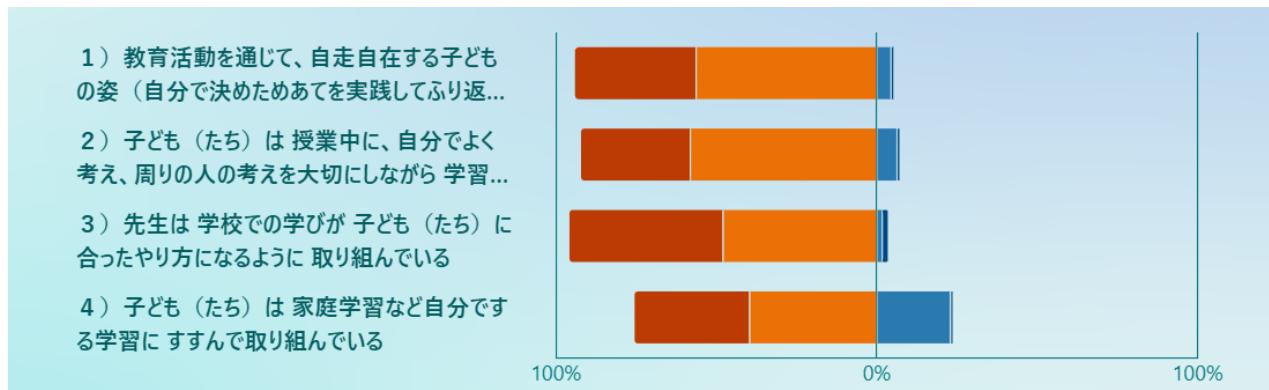
- 学習活動において、知的好奇心を引き出す工夫が必要だと感じます。
- 楽しさや理解を伴わない学びには意味がないとの意見がありました。

2 「確かな学力」の育成に向けて

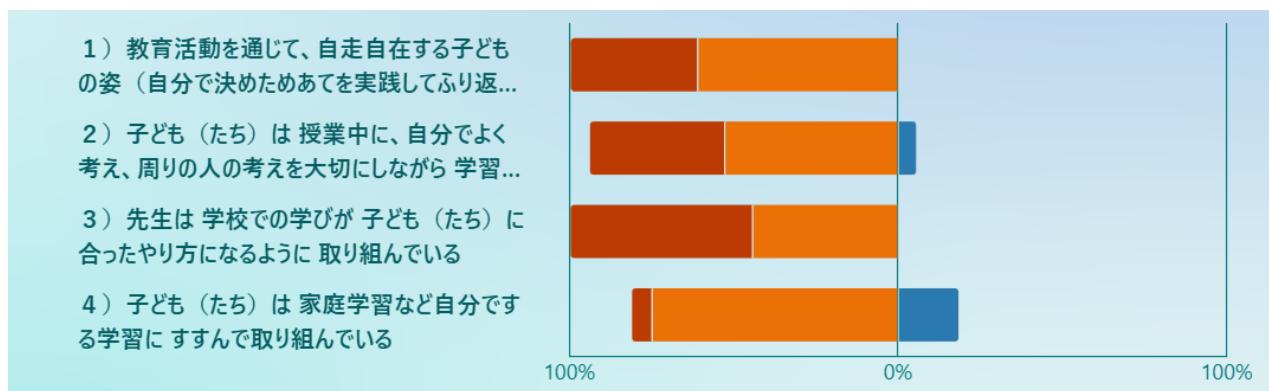
児童



保護者



教職員



保護者の方からのご意見

【成果】

授業の工夫と子どもの成長

- 子どものペースに合わせた指導により、読み書きの力が大きく伸びていると感じます。
- 協働的な授業と家庭での反復学習の組み合わせが理想的であると評価されています。

- ・ スキルアップタイムの導入により、集中力やテストへの意欲が向上しています。
- ・ 各学年に応じた教材やプリントの工夫がされており、楽しく学習できているようです。
- ・ 授業での交流活動が、コミュニケーション力やクラスへの適応に役立っているとの声があります。

自主学習・ICT 活用の成果

- ・ 自主学習ノートへの先生のコメントが、子どものやる気につながっています。
- ・ ロイロノートや一人一台端末の活用により、表現力や ICT スキルが育まれています。
- ・ 自主研究や作文などを通じて、考える力やまとめる力が身についてきています。
- ・ 自分で計画を立てて学習する姿勢が育まれており、家庭でも褒めて励ますことができます。
- ・ 自主的に学習に取り組む姿勢が見られ、成長を感じているとの声があります。

【課題】

学習内容・指導への不安

- ・ 習っていない内容の宿題が出ることがあり、家庭での対応に悩むことがあります。
- ・ 振り返りの記述が浅く、苦手な子どもが多いと感じています。
- ・ 意欲のあるときに自主学習ノートが手元にないことがあります。家庭での取り組みに支障があります。
- ・ 宿題が多く感じられ、子どもが簡単な課題ばかり選ぶ傾向があります。
- ・ 自主学習の内容が曖昧で、何をすればよいか分からぬ様子があります。
- ・ 家庭学習の習慣がついていない子もあり、声掛けだけでは意欲につながりにくいです。
- ・ 授業が子どもの興味を引けていないと感じる場面があり、型にはまった教育への懸念があります。
- ・ タブレットの使用によるランドセルの重さや画面の見過ぎが心配です。
- ・ 家庭学習の進め方について、学年ごとの指導や情報共有があると助かります。

学校の取り組み

全体としては、子どもたちは学習に対して意欲的で、主体的に取り組む様子が見られます。一方で、文字の書き方や道具を使った作業等基本的な学習習慣など気になる面もあります。基礎的な学力の定着とともに、学習用具の準備や使い方についても継続した指導が必要であると考えています。

授業では、国語科では、学校全体で実践してきたこれまでの研究が学習の成果として表れています。引き続き、子ども自らが学ぶ「能動的な学び」を進めています。一方、算数科では、子どもたちの興味関心や学力定着に力を入れ、子どもたちが「算数もおもしろい」と感じられる授業づくりに努めています。授業力向上に向けて教職員も日々学んでいます。(※国語・算数・理科については、「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果」のお知らせをご参照ください)

昨年度から始まった朝の「スキルアップタイム」については、学校も学力向上に向けた有効な取り組みであると認識しています。目的や目標があることで、スキルアップタイムを有効に使っているのだと思います。また、授業で学ぶ意味や成長を感じられたりすることで、自分で学びをつくる子どもを育んでいきます。

下記は、保護者の皆さんにご提案いただいた内容です。

【保護者の方からのご意見】

教育方針への共感と感謝

- ・ 自学自習の力を育てる方針に共感しています。
- ・ 自主性を尊重する教育が、子どもの成長につながっていると感じています。
- ・ 学校と家庭が連携して、日常生活に必要な学力を育てられることに感謝しています。

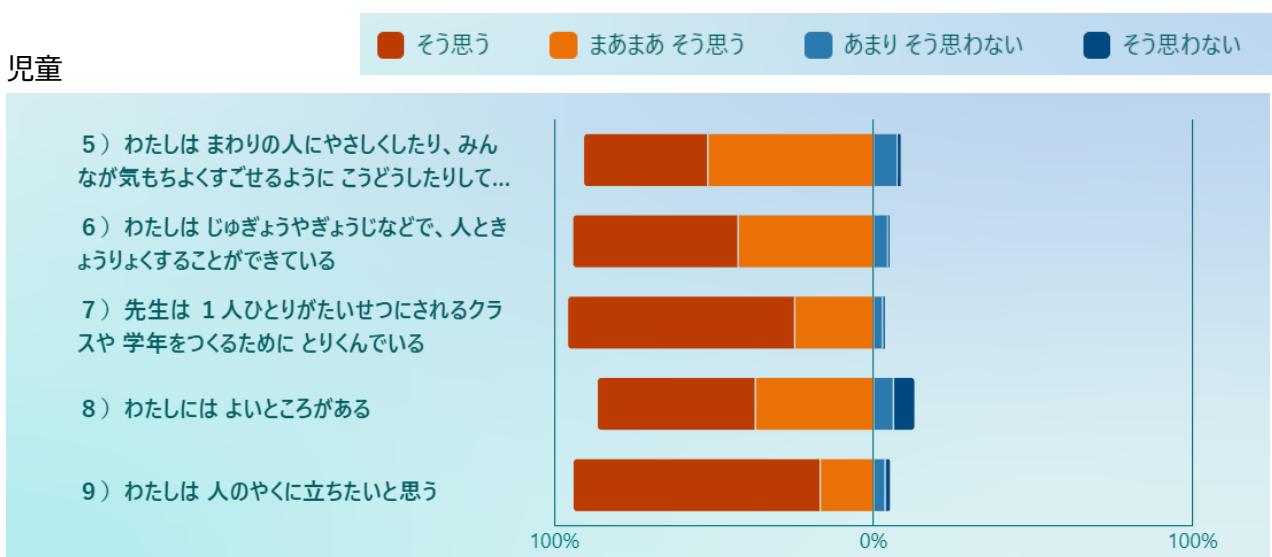
- ・自分の興味や得意なことを深める機会として、自主学習を評価しています。
- ・自走自在の理念が、学習への前向きな姿勢に表れていると感じています。
- ・先生方の熱心な指導や工夫に対して、感謝の声が多く寄せられています。

より良い学習環境への提案

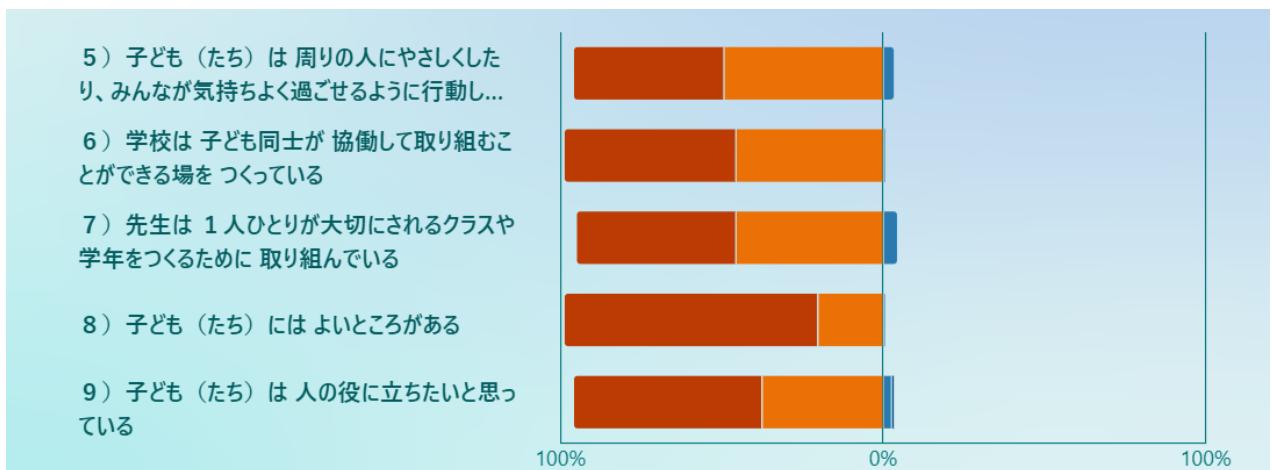
- ・自主学習ノートを毎日持ち帰れる仕組みがあると助かります。
- ・自主学習に対して、先生から一言でもコメントがあると励みになります。
- ・自主学習にシールなどの褒賞があると、意欲が高まると思います。
- ・辞書引きなどアナログな学習も取り入れて、語彙力や調べる力を育ててほしいです。
- ・明確な課題を提示していただけだと、家庭でも取り組みやすくなります。
- ・学びたい子向けに、追加プリントなどの選択肢があると良いと思います。

取り組みが成果として表れている面と、一方で迷いや困りを抱える児童がいることもわかります。成果が出ている取り組みを活かしたり、教職員が「全体の底上げ」に活かす視点で取り組んだりして、ご提案いただいたことを取り入れながら、すべての子どもにとってより良い学びの場の実現を目指します。

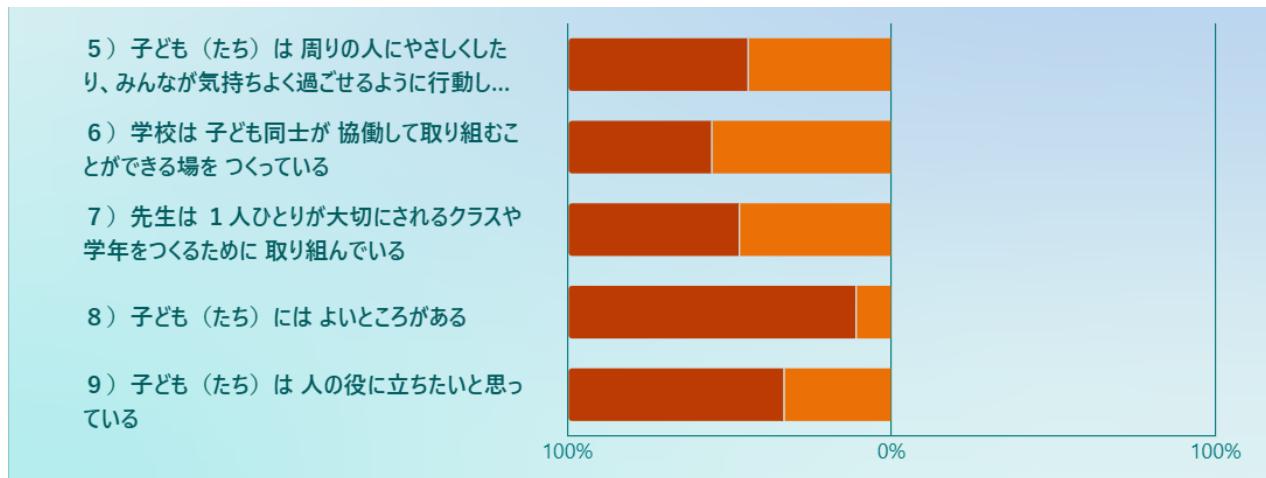
3 「豊かな心」の育成に向けて



保護者



教職員



保護者の方からのご意見

【成果】

他学年との交流・縦割り活動の効果

- 上級生が下級生に優しく接してくれることで、子どもが安心して学校生活を送っていると感じます。
- 縦割り活動を通じて、子どもが「憧れ」や「目標」を持ち、将来の自分を想像する機会になっています。
- 学年を超えた関わりが、協力する姿勢や責任感の育成につながっていると感じます。
- 運動会や水泳授業などでの縦割りの関わりが、思いやりや優しさを育てる良い機会になっています。
- 委員会活動(イワフェスなど)では、子どもたちが自分たちで考え、楽しみながら人のために行動する姿が見られます。

人間関係・社会性の育成

- 挨拶を意識して行う姿が見られ、名前を呼んでから挨拶するなど丁寧な関わりが育っています。
- 友達の良いところを見つけて真似しようとする姿や、自分の強みを誇らしげに語る様子が見られます。
- 自分の役割を理解し、協力して取り組む姿勢が見られ、責任感が育っています。
- 学校外でも他学年との交流が続いていること、学校生活の中でのつながりの強さを感じます。

教育活動への評価

- イワスタやキャリアパスポートなどの取り組みが、高学年としての意識を高める良い機会になっています。
- 運動会ノートを通じて、子どもが目的を持って活動している様子が伝わってきます。
- 子どもがイベントや活動に楽しんで取り組む姿が見られ、学校生活が充実していると感じます。
- 児童が中心となって活躍する場を設けてくださっていることに感謝しています。

【課題】

活動の時間や内容に関する懸念

- 縦割り活動を休み時間に行うことに対して、自由時間が減ることでストレスを感じる子もいるのではと心配されています。
- 低学年の自由な行動に対して、上級生が対応に困る場面があり、負担に感じることもあるようです。
- 学校教育全体に対してネガティブな印象を持っている保護者もあり、期待が低いとの声もあります。

学校の取り組み

現代社会では利己的な傾向が強まる中、他者との関わりを通して得られる学びは、今この時期にこそ身につけてほしい大切な力です。本校では人と関わることが好きな子どもが多く、そうした子どもたちを見守り、伸ばすための環境が整っていると考えております。普段から縦割り活動を意識した取り組みが行われており、上下関係の中で互いに心を育む経験ができます。教職員以外にも頼れる存在が学校にいることは、子どもが安心して学校生活を送る上で重要です。

委員会やクラブ活動は、子どもたちが自分の興味や関心に応じて選び、主体的に取り組んでいます。「イワスター」や学校行事においても、やりたいことを尊重し、子どもたちが生き生きと活動し、確実に成長している様子が見られます。これらの活動で培った力を、各教科の授業でも発揮できるよう、学びの場の工夫が求められています。教員は、授業を中心にさまざまな活動の中で、児童が自分自身と向き合いながら他者と協働的に取り組めるよう、日々工夫を重ねています。子ども一人ひとりが違うように、それぞれの教員のよさがさまざまな子どもたちに届くよう今後も学校全体で取り組んでいきます。

下記は、保護者の皆さんにご提案いただいた内容です。

【保護者の方からのご意見】

教育方針への共感と感謝

- ・ 縦割り活動は心の成長につながる素晴らしい取り組みだと感じています。
- ・ 先生方が子ども一人ひとりに気を配りながら授業を進めてくださっていることに感謝しています。
- ・ 学年関係なく「友達」と呼べる存在が多く、安心できる学校環境が整っていると感じます。

活動の質向上への提案

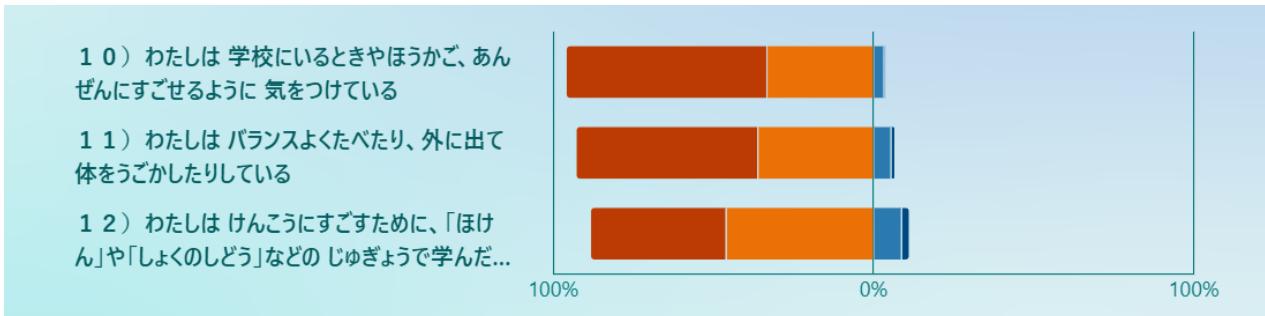
- ・ 縦割り活動の時間設定について、授業時間とのバランスを考慮してほしいとの意見があります。
- ・ 活動の中で輝けなかった体験も、成長の糧として指導してくださっていることに感謝しつつ、今後も丁寧なフォローをお願いしたいです。
- ・ 低学年の行動に対する上級生の対応力を育てるための支援や指導があると助かります。
- ・ 教職員の皆様が無理なく継続できるよう、協働体制や休息の確保をお願いしたいです。

本校で教育活動の中に位置づけているたてわり活動(児童会活動)は、1年生を迎える会、運動会(開閉会式・係活動)、6年生を送る会等です。それ以外のたてわり活動を授業時間に実施することは、現状の時間割では厳しいため、子どもたちの休み時間や掃除時間を使ってたてわり活動を行っています。また、たてわり活動は、たてわり委員会の子どもたちが企画・運営し、各グループの6年生が軸となって行います。教職員は活動を見守り、子どもたちが迷ったりつまずいたりしたときに、どうしたらよいか一緒に考えたり、子どもの考えを引き出したりする役割を担っています。大人が口出しそれば、滞りなく進みますが、子どもたちが経験・成長する機会として見守っていただければ幸いです。

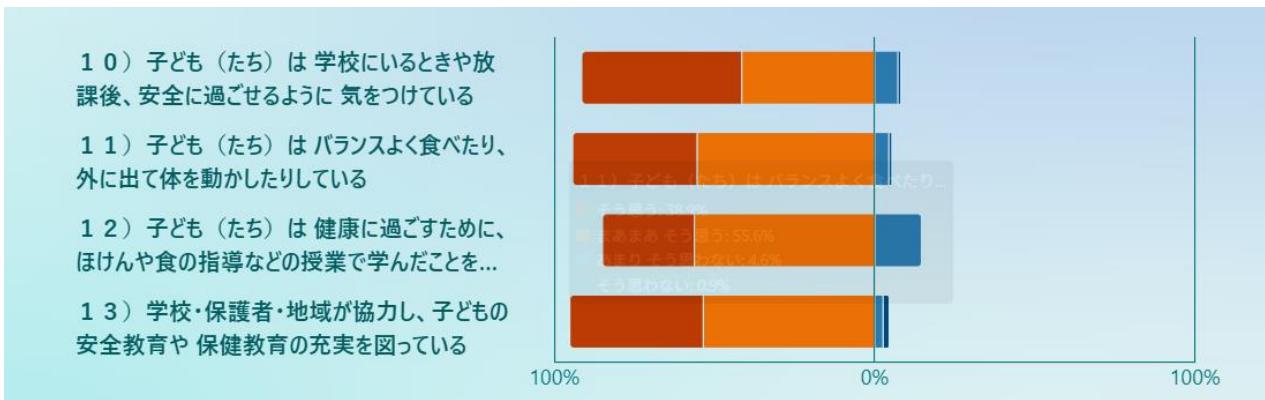
4 「健やかな体」の育成に向けて

児童

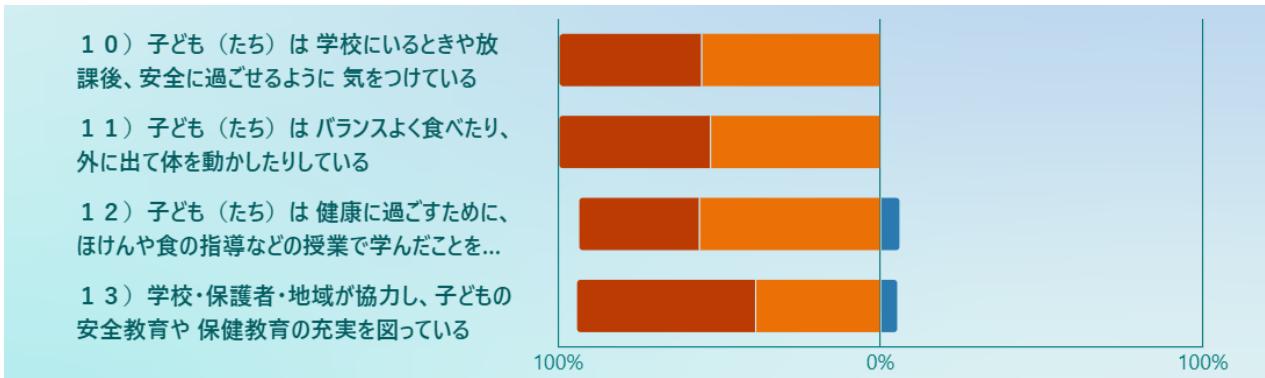
■ そう思う ■ まあまあ そう思う ■ あまり そう思わない ■ そう思わない



保護者



教職員



保護者の方からのご意見

【成果】

地域との連携・見守り活動

- 登下校時の地域の方々による見守り活動に感謝しています。安心して子どもを送り出せるようになりました。
 - 地域の方々が声かけや挨拶をしてくださることで、子どもたちの挨拶の習慣が身についています。
 - 地域との連携を感じる取り組みが多く、保護者としてありがたく思っています。

学校内の安全・健康教育

- ・ 保健便りや保健室前の掲示物が工夫されており、子どもたちの健康意識が高まっています。
 - ・ 委員会活動による安全啓発ポスターの掲示が、安心感につながっています。
 - ・ 学校訪問時の名札着用の呼びかけが、安心・安全な環境づくりに貢献しています。
 - ・ 避難訓練や安全教室など、学年に応じた安全教育が実施されており、ありがとうございます。
 - ・ 情報モラル教室の実施により、スマホや SNS への理解が深まり、安心しています。

【課題】

登下校・交通安全

- 校門前や周辺道路に横断歩道がなく、交通量も多いため、危険を感じる場面があるとの声がありました。
- ヘルメットを着用せずに自転車に乗る子どもが多く見られ、学校からの指導を強化してほしいとの意見があります。

安全教育のタイミングと内容

- 自転車教室の実施時期が遅く、低学年からの実施が望ましいとの声があります。
- SNSトラブルが発生する前に、予防的な指導があれば良かったとの意見がありました。
- 高学年になるほど自転車の運転が荒くなる傾向があり、継続的な指導が必要だと感じています。

学校の取り組み

休み時間には、外で元気に遊ぶ子どもの姿が多く見られます。異学年同士や先生との交流も活発で、学校全体に温かい雰囲気があります。

学校行事や学級活動、外部講師による授業などを通じて、子どもたちは多くの体験や新しい学びを得ています。本校では、非行防止教室などの取り組みで子どもたちの健全な育成を図っていますが、内容の精選を行い、より効果的な指導につなげるなど、実生活に結びつき、活かせるようなしきけづくりが求められています。安心安全な環境づくりについては、学校でも家庭でも一定の配慮がなされているものの、児童自身の危険を回避する力や自己防衛の意識を育てることが重要です。

また、地域からは「子どもたちの安心安全な環境づくりは、学校だけでなく地域全体で取り組むべき課題であり、地域は今後も学校と連携しながら、子どもを守る意識の醸成に努める」という心強い言葉をいただいております。

下記は、保護者の皆さんにご提案いただいた内容です。

【保護者の方からのご意見】

教育方針への共感と感謝

- 学校の安全・健康への取り組みに感謝しています。安心して子どもを送り出せています。
- 生活チェックの取り組みが、子ども自身の生活習慣を見直す良い機会になっていると感じています。
- 社会生活に通じる知識や「生きる力」を育む教育が、記憶に残りやすく効果的だと思います。

今後の取り組みへの提案

- 自転車教室を全学年で毎年実施し、年齢に応じた内容にしてほしいです。
- 自転車の危険運転や道路標識の理解など、実践的な内容を取り入れてほしいです。
- 性教育や犯罪予防教育(SNS・生成AIなど)を全学年に広げてほしいです。
- 金銭の使い方やコンビニ利用など、日常生活に関する指導も取り入れていただけると助かります。
- 防犯・防災マニュアルの導入や配布を検討していただければ安心です。

自転車を含め、交通安全指導に対するご意見を毎年いただいております。保護者の方にとっても、教職員にとっても関心の高い事柄です。1学期は、1年生が交通安全教室、4年生が自転車教室を行いました。1年生は道路交通のルールについて実演を交えて、4年生は、運動場を道路に見立てて、自転車の正しい乗り方を体験しました。警察の方に直接指導を受けることで、正しいルールを知り、身に付けられる機会です。そのほかに

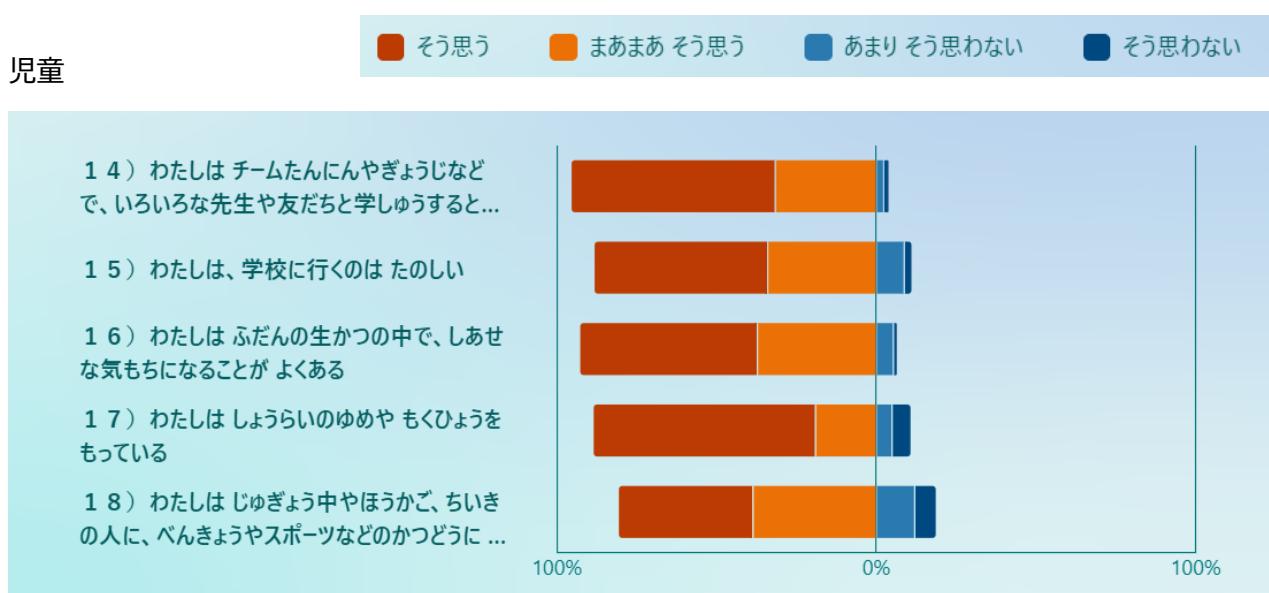
も、学校では行事の際や長期休み前等に、安全ノートを用いて指導を行っています。

情報モラル教室は、今年度から学年を繰り下げる、4年生以上で実施しました。夏季休業前に講師を招いて、SNS のトラブルや、インターネット投稿の危険性について学びました。子ども自身が携帯電話やスマートフォンを使用する機会が増えており、各ご家庭でも使い方やルールをお子様とお話ししていると思います。学校でも、2学期のはじめに、貸与された iPad 導入の際、子どもたちと使い方を共通理解しました。便利な道具を正しく使えるように引き続き指導してまいります。

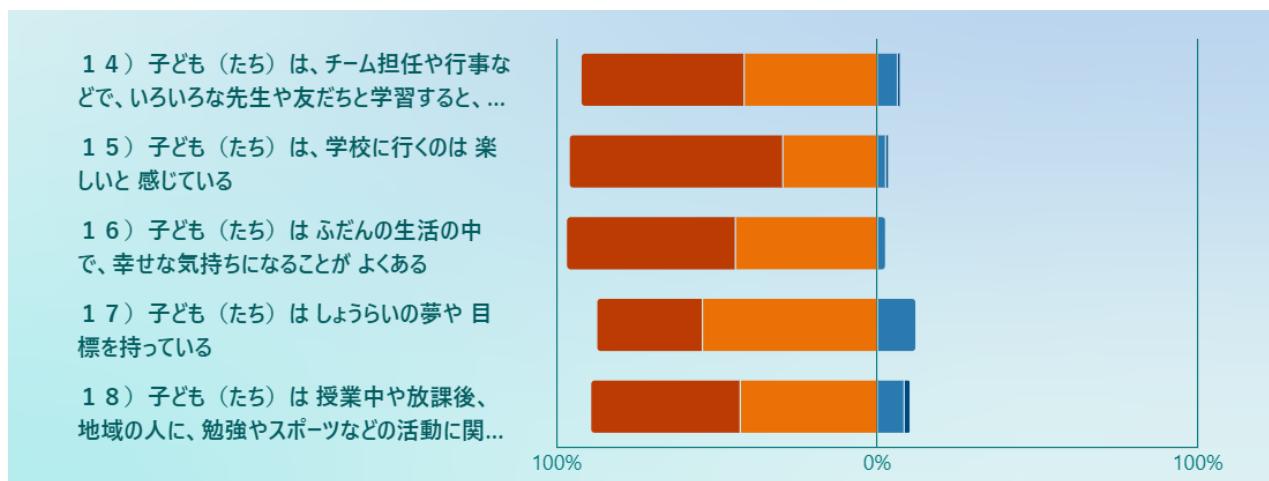
ほかにも、1学期は非行防止教室や薬物乱用防止教室など警察署や京都市から講師を招いて学習しました。詳細は、学校 HP のカテゴリ「各学年」のほか、「学校の様子」でもご覧いただけます。(外部リンクで開きます：[京都市立岩倉北小学校](#))

5 学校の取組に関して

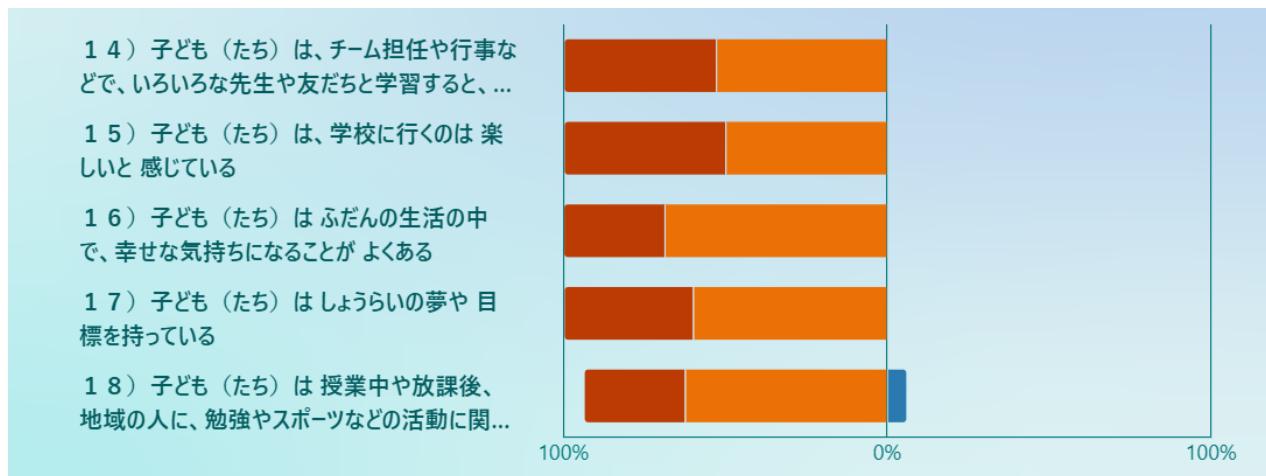
自己有用感に関する項目



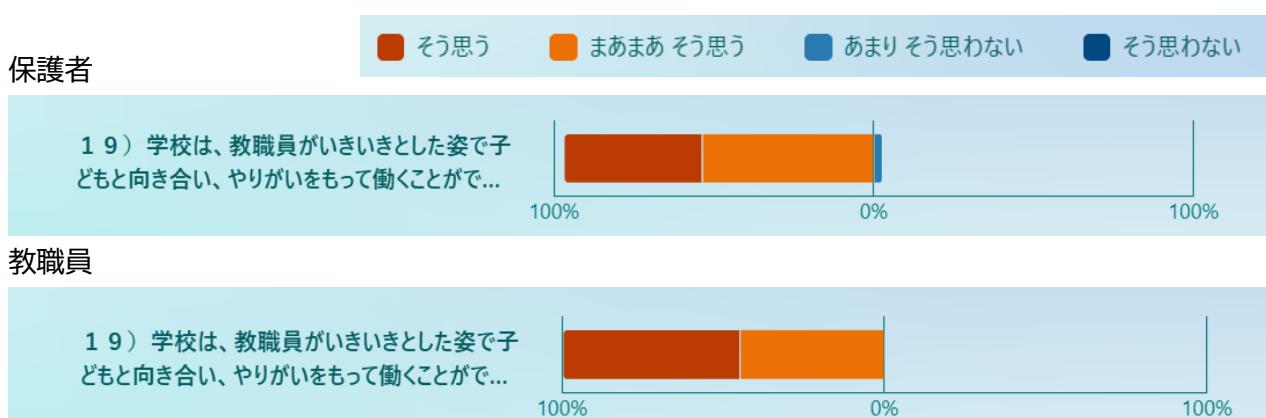
保護者



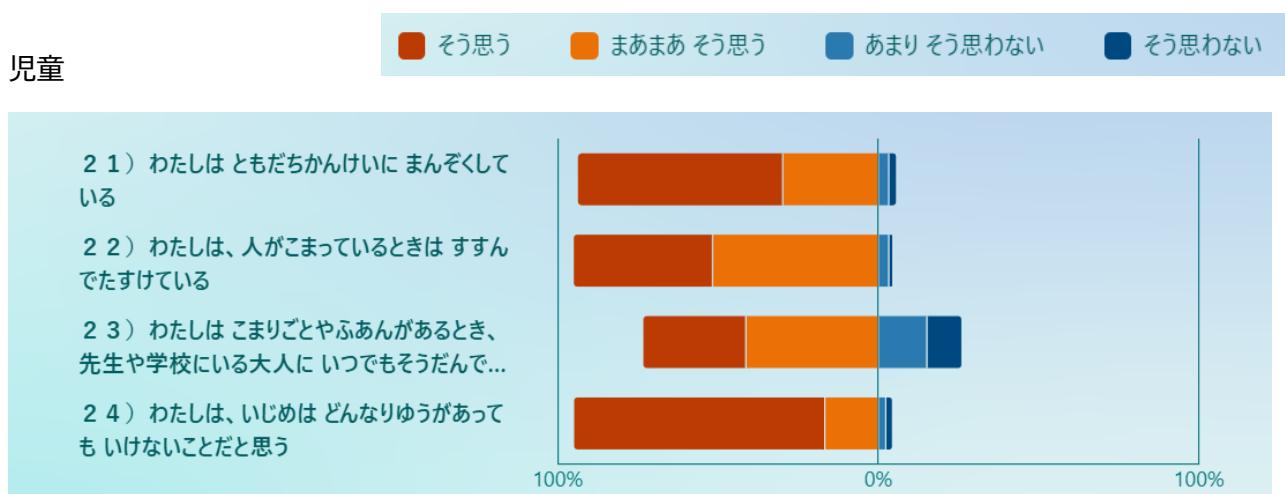
教職員



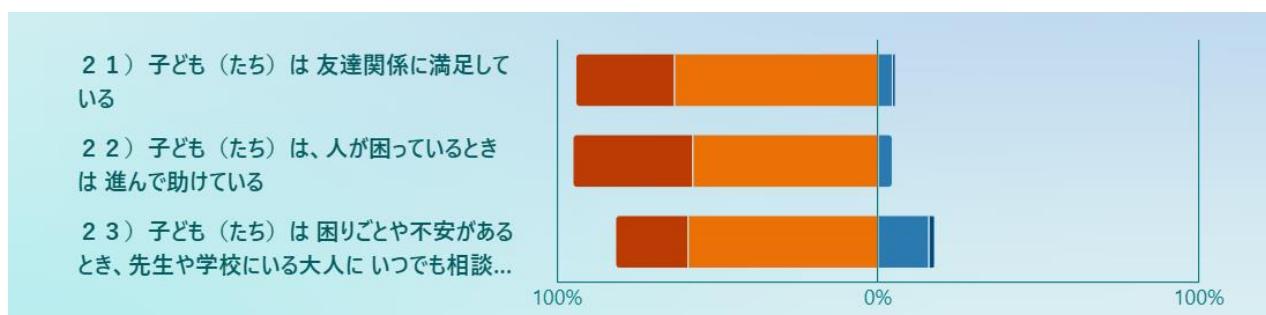
教職員の働き方改革について



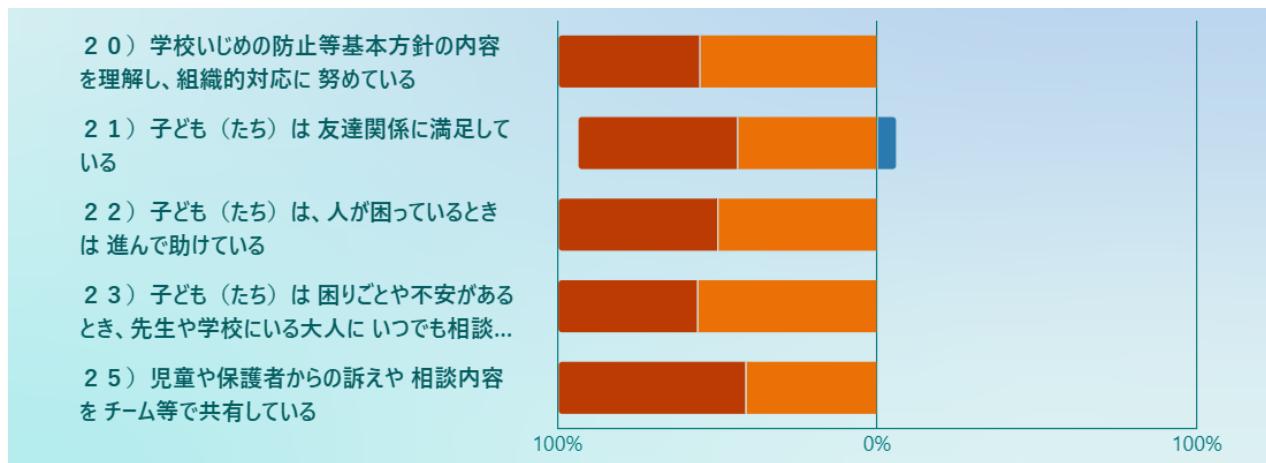
いじめの防止等についての取組に向けて



保護者



教職員



保護者の方からのご意見

学校・保護者・地域とのつながりに関するここと

【成果】

地域との連携・活動の充実

- 読み聞かせ会や放課後まなび教室など、地域の方々との関わりを通じて、子どもたちが楽しく学べていることに感謝しています。
- 地域の方々によるサークル活動(茶道・舞踊など)や見守りが、子どもたちの貴重な体験や安心感につながっています。
- 地域とのつながりが希薄になりつつある中、学校を通じて関係が築かれていることにありがたさを感じています。

学校の情報発信・教育活動

- ホームページで授業の様子を発信してくださることが、学校の取り組みを知る良い機会になっており、保護者から好評です。
- 放課後まなび教室が、学習習慣の定着や家庭での負担軽減に役立っているとの声があります。

【課題】

保護者の関わり・マナー

- 授業参観時の保護者の私語やマナーの悪さが気になるとの声があり、学校側からの注意喚起を求める意見がありました。

- PTA の加入率が低く、加入世帯の負担が偏っていることに不満を感じている保護者もいます。
- 学校がオープンな印象を持たれていないとの声があり、参観機会の少なさを課題とする意見がありました。

部活動・課外活動の継続性

- 部活動の廃止により、子どもたちの運動機会が減っていることを懸念する声がありました。
- 男児が参加しやすい課外活動の種類が少ないとの意見があり、活動の幅を広げてほしいとの要望があります。
- 地域での継続活動が十分に体制化されていないとの指摘がありました。

教職員の働き方改革について

【成果】

教職員の負担軽減に向けた取り組み

- チーム担任制の導入により、教職員の負担が分散され、柔軟な対応が可能になっていると感じます。
- 火曜・木曜の短縮校時が、教職員だけでなく児童の疲労軽減にもつながっていると評価されています。
- 講師の配置や管理職による授業参加など、学校全体で支え合う体制が整っていることに感謝の声が寄せられています。
- 教職員が丁寧に子どもたちに関わってくださっていることに対して、保護者から感謝の気持ちが多く寄せられています。

【課題】

働き方改革による影響と懸念

- 働き方改革の影響で、宿泊学習・部活動・夏休みの学習会など、児童の体験機会が減っていることに対する残念な気持ちが寄せられています。
- テストの丸つけにおいて、誤った採点が見られることがあり、児童が混乱する場面があるとの指摘がありました。
- 情報の取り扱いに不安を感じる声があり、情報共有の丁寧さが求められています。

保護者との連絡体制

- 電話対応が17時までとなっていることに対し、仕事をしている保護者からは時間の制約が厳しいとの声がありました。
- 実際には17時前に電話が繋がらないこともあります。正確な対応時間の周知が求められています。
- 懇談以外での意思疎通手段が少なく、保護者との連携に課題を感じている意見もありました。

学校の取り組み

学校・保護者・地域とのつながりに関するこ

今年度は、図書館ボランティアの皆さんに、月・水・金の朝の時間に図書室を開けていただいております。図書室を利用する子どもたちが増えており、本を読むきっかけづくりにつながっていると感じます。また、読み聞かせボランティアの方には、月1回の読み聞かせ会を継続していただいております。

教育活動においても、地域の方や栽培ボランティアの皆さんに2年生のサツマイモと3年生のネギでお世話になっております。1学期は自転車教室実施のために4年生を中心に力を貸していただき、宿泊学習ではたく

さんの保護者の方に、出発・帰校を見守っていただきました。

放課後活動では、「放課後まなび教室」や、今年度から始まった「岩倉北放課後地域子どもサークル」は地域主体で豊かな学びの場をご提供いただいております。

「テストの丸つけにおいて、誤った採点が見られる」ことについて、子どもたちに混乱を招いてしまい申し訳ございません。人のすることですので、間違いを無くすることは難しいですが、学校としては、なぜ丸がついてしまうのか、どの教科・場面で多いのかという現状の整理は必要だと考えています。学校では間違ってもいいことを前提に日々授業をしており、「ミスをゼロにする」よりも、「ミスがあったときにどうリカバリーするか」ということを大切にしたいと思います。各学年で、テストや宿題での丸付けのルールが児童と共有されています。採点ミスを見つけられた場合は、児童・保護者に関わらずご連絡いただければと思います。

本校では、月に1回程度、保護者の方に来校していただく機会を設けておりますが、9月については、参観・懇談共に設定しておりません。9月は、10月の運動会に向けて、子どもたち・教職員にとって、重要な期間と位置付けております。運動会の準備に集中できるよう、9月は保護者来校の行事を設定しておりませんので、ご理解いただけますと幸いです。また、年間スケジュールは、4月発行の学校だよりも掲載しておりますので、学校HPでもご確認いただけます。

PTA やボランティア活動に参加される保護者の方をはじめ、教育活動や放課後活動にご協力いただく地域の方など、保護者や地域の皆様には、さまざまな形で学校を支えていただいております。一方で、保護者の現状や学校への意識の変化、地域の思いを踏まえ、学校・保護者・地域それぞれが柔軟な考え方を持つことが求められていると感じます。子どもたちの健やかな成長のためには、多くの人の関わりが大切です。子どもたちに豊かな経験の機会を提供するために、今後ともそれぞれの立場・方法でご協力いただけますと幸いです。

【保護者の方からのご意見】

教育方針への共感と感謝

- 地域・保護者の協力によって、学校生活がより楽しく、充実したものになっていると感じています。
- 学校とは違う世界に触れる機会があることが、子どもたちの成長に良い影響を与えると感じています。
- 地域の方々に見守られていることが、子どもたちにとって安心につながっているとの声があります。

今後の取り組みへの提案

- 読み聞かせ会などの地域活動への参加を促進する工夫があると良いです。
- 保護者へのマナー啓発を、掲示物やすぐーるなどで積極的に行ってほしいです。
- 部活動の代替として、地域と連携した継続的な運動・文化活動両面の体制整備を進めてほしいです。
- 公園などでの子どもの遊びに対する過剰な制限について、地域全体で理解を深める取り組みがあると望ましいです。
- 保護者が学校に関わりやすくなるような柔軟な仕組みづくりがあると助かります。
- 災害時などの迅速な情報発信を今後も継続してほしいです。

教職員の働き方改革について

本校でも、勤務時間内で、子どもたちと向き合う時間を十分に確保し、教材研究や授業準備に一層力を注ぐことができるよう取り組んでおります。部活動の地域移行は、できる範囲で地域の方に力を貸していただいております。運動部が少なくなった分は、教育課程のクラブ活動で、運動できるクラブの種類を増やすことで、子どもたちが充実した時間もてるようにしております。国が進める「教職員の働き方改革」は、教育現場での教員の長時間労働・過重労働を解消し、教育の質の向上と持続可能な勤務環境の実現を目指す取り組みです。学校レベルでできる働き方の見直しは、この数年で大きく進展し、教職員一人ひとりが尊重され、働き

やさしいと感じられる職場づくりが進んでいます。一方で、業務量の多さは依然として課題であり、勤務時間内に仕事が終わらないことが多いです。すぐに改善するのは難しい現状を踏まえて、どのような点を見直し、改善していくべきかを皆で考え、協力して取り組んでいきたいと思います。

電話対応時間等については、別紙「お電話での連絡に関するお知らせとお願ひ」をお送りしますので、ご確認お願ひします。

【保護者の方からのご意見】

教職員への配慮と応援

- 教職員の健康や心の余裕が、子どもたちの安全・安心につながるため、働きやすい環境づくりを応援したいという声が多く寄せられています。
- 教職員が無理なく、楽しく働く環境であることを願う声が多く、改革の継続を望む意見が見られます。
- 教職員の事情による休暇取得が柔軟に行われていることに対して、理解と評価の声が寄せられています。

今後の取り組みへの提案

- 電話対応時間の延長(例:17:15~17:30)や、対応時間の明確な周知を希望する声があります。
- 外部委託による業務分担(例:プール管理、事務作業)により、教職員の負担軽減を図ってほしいとの提案があります。
- 教職員の負担軽減によって生まれた余力を、授業や教材の質向上に活かしてほしいとの意見があります。
- 保護者との連絡手段の多様化(すぐーる以外の方法)を検討してほしいとの要望があります。
- 子どもたちの体験機会を守るため、宿泊学習や課外活動の意義を再検討してほしいとの強い願いが寄せられています。

「こんな子どもになってほしい」という保護者の願いやご意見

1. 健康と基本的生活習慣の定着

子どもが毎日元気に過ごし、健康に育ってほしいという願いが多く見られました。基本的な挨拶や礼儀を身につけ、身体を動かすことを楽しみながら、健やかに成長してほしいという思いが込められています。

2. 自己肯定感と自信の育成

自分の好きなことや得意なことを見つけ、自分自身を大切にしながら、自信を持って生きてほしいという声が多く寄せられました。自分の考えを堂々と伝えられる力や、自分の良さを認める姿勢を育んでほしいと願われています。

3. 思いやりと他者理解の心

困っている人に手を差し伸べたり、他者の気持ちを考えたりする優しさを持った子どもに育ってほしいという意見が多くありました。多様性を認め、偏見を持たず、他者の価値観を受け入れる姿勢を大切にしてほしいという願いが込められています。

4. 自立心と主体的な行動力

自分で考え、行動できる力を育ててほしいという意見が多く見られました。夢や目標に向かって努力し、自分の信念を持ちながらも協調性を大切にする姿勢が望まれています。自走自在の考え方に対する賛同する声も多くありました。

5. 感謝と謙虚さの心

人への感謝の気持ちを忘れず、素直で謙虚な姿勢を持った子どもに育ってほしいという意見がありまし

た。人の喜びを共に喜び、アドバイスを素直に受け入れる姿勢を大切にしてほしいという願いが込められています。